

令和元年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

第3回

令和元年10月11日（金） 午後6時30分～ 総合学習センター

『研究的実践に学ぶ』

提案者：大原 洋平先生（根石小） 三浦 優子先生（連尺小） 山田 真希先生（六ツ美中）

① 根石小学校 大原 洋平先生 6年「円の面積」の実践

主題「主体的に取り組み、対話を通して考えを深める児童の育成」

どちらのピザがお得か面積を比較して考える授業やひもでつながれた犬が遊べる範囲の面積を考える授業を行った。教師との対話や操作活動を取り入れることで、課題解決に向けての見通しをもつことができた。机間指導を充実したり、相談タイムを設けたりすることで、仲間同士で考えを共有したり、教えあったりする対話が生まれ、自分の考えを深めることができた。



② 連尺小学校 三浦 優子先生 1年「3つのかずのけいさん」の実践

主題「低学年における『深い学び』の実現をめざした算数の授業」

『深い学び』を授業の中で新しく得られた知識や技能などが、自分のものになり、その考え方のよさに気付いたり、考え方が変わったりするものと捉え、実践を進めた。集団解決後に式の説明を必ず一人一回友達に説明できるようペア学習を取り入れたことで、友達の考えを自分の考えに取り入れて広げようとする態度が育った。また、振り返りの場面では、チョークで強調した板書を基に繰り返し説明させたことで理解を促すことができた。



③ 六ツ美中学校 山田 真希先生 2年「一次関数」の実践

主題「自分の考えを表現できる生徒の育成」

題材として、六ツ美中学校から見える新幹線を取り上げた。「教室から、新幹線がすれ違う瞬間は見られるか。」という課題で行った。発表する際には、大型ディスプレイなどを利用して学級全体と共有しながら、自分の考えを説明することができた。授業の後半は時刻表から出発・到着時間の2点を取り、ダイヤグラムを完成させた。一次関数の学習やダイヤグラムから、それらを根拠に新幹線がすれ違う時間を視覚的に確認することができた。



《柴田先生のご指導より》

- ① 4枚のピザがはみ出していると、子どもたちはどのように処理するのか。子どもたちが教材を楽しむようにするとよい。
- ② 1年生だが、（ ）を使って、どう捉えたのか詰めてほしい。
- ③ 速さは一定ではないが、粗っぽく予想するのは科学的にも○。

《三浦先生のご指導より》

- ① 内接していない等のピザの面積だと、なぜ答えが違うのか。なぜ接していると答えが同じなのか。その理由が分かることが深い学びなのではないか。
- ② 1年生でもその学年における深い学びの具体的記述をするとよい。
- ③ 実際の生活場面を問題にするのは大事である。問題解決への意欲を高める。

3名の先生方に実践紹介をしていただきました。協議会では、グループ協議、全体協議を行い、活発な意見交換となりました。県教研での活躍が期待される3名の先生方を激励する読書会となりました。